

教員推薦図書 2021年10月

推薦教員	子ども学科 准教授 木村 祐子 先生	<p>【推薦コメント】</p> <p>昨年、ベストセラーになった『ケーキの切れない非行少年たち』をご存じでしょうか。今回、紹介する本はその続編です。私たちは「頑張る人を支援する」ことに対しては寛容ですが、「頑張れない人たちを支援する」ことに対しては厳しいまなざしを向けます。著者はこうした傾向を疑問視し、「頑張れない人こそ支援が必要なのではないか」と問題提起をしています。</p> <p>しかしながら、頭では理解できても「頑張れない人」「怠けてしまう人」を励まし、支援することは容易ではありません。支援者は彼らになんとか「やる気スイッチ」を押してもらおうとさまざまな言葉をかけますが、失敗に終わってしまうことの方が多いのです。困ったことに、「頑張れない人」の多くは、支援が必要な状況にあるにもかかわらず、支援を求めようとせず、どちらかといえば遠ざけようとします。こうした状況のなかで支援者も頑張れなくなっていくます。ここに支援の難しさが垣間見られます。</p> <p>著者は児童精神科医として医療少年院で勤務した経験をもとに、非行少年のなかに頑張れない子どもの存在をみいだしています。頑張れない人には、養育環境などの理由があるわけですが、それでも頑張らないまま社会の中で生きていくことは難しいのが現状です。流行りの「ありのまま」「無理しなくていい」では通用しないのです。ではどうしたらいいのか。この本には彼らに「やる気スイッチ」を押してもらおうためのヒントが書かれています。</p> <p>それにしても、このような本に注目が集まる理由は、これまで社会の周辺に位置づけられてきた人たちに社会が目を向けようとしているからだと考えられます。そのこと自体は好ましいことですが、実際に、彼らを支援するとはどういうことなのかということはこの本のように考えていかなければなりません。</p>
書名	<p>どうしても 頑張れない人たち</p> <p>(新潮新書:903. ケーキの切れない非行少年たち:2)</p>	
著者名	宮口幸治 著	
出版社	新潮社	
請求記号	901120694	
資料ID	368.71 / Miy	